

特集・神戸大学登山隊

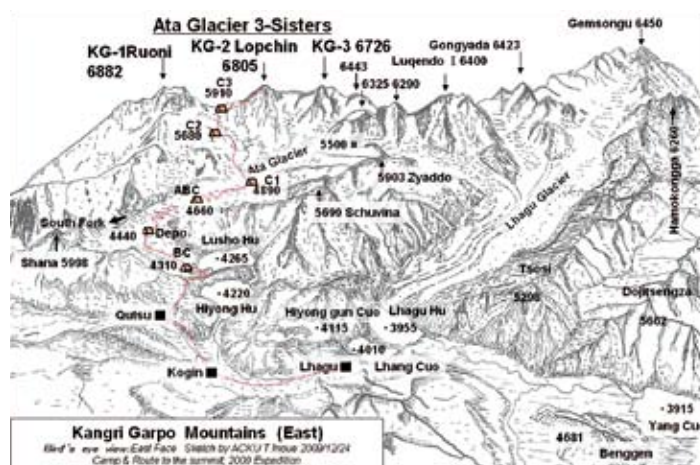
チベットの 未踏峰に登頂

中国・チベット自治区の東南部に広がる崗日嘎布(カンリガルポ)山群。30座を越す6000m峰すべてが未踏峰のまま残され、世界の登山家や学者から注目されています。この未探検地域にそびえるKG-2(6,805m)に2009年11月、神戸大学・中国地質大学(武漢)合同学術登山隊が、初登頂する快挙を成し遂げました。

特集
神戸大学登山隊



KG-2峰頂上の矢崎雅則隊員



登山ルート図



第2キャンプに到達した日中隊員



東北(27Km遠方)から望むKG-2(中央奥)

敗退から再挑戦

1986年、神戸大学はチベットのクーラカンリ(7,554m)の初登頂後、拉薩から成都まで学術調査旅行を行った際、カンリガルボ山群の存在を知りました。山群の最高峰、ルオニイ峰の初登頂を目指し、2002年に偵察隊、2003年に本隊(平井一正隊長)を派遣しましたが、残念ながら悪天候などのため敗退しました。

2006年11月、「神戸大学ヒマラヤへの挑戦」と銘打った記念パーティーの席上、カンリガルボ山群、阿扎氷河三姉妹峰への再挑戦を宣言しました。その際、中国地質大学(武漢)・神戸大学合同登山隊の雀児山(チェルー、6,168m)初登頂20周年を記念した新たな合同登山が、中国登山協会より提案されました。2007年5月、日中合同登山の契約を締結。10月、三姉妹峰に日中合同偵察隊を派遣し、立派で美しい中央峰KG-2峰の初登頂を目標に決めました。

頂上へ

2009年10月9日、先発隊は中国側先発隊と合流し拉薩に先行。翌10日、関西空港を出発した本隊が武漢入り。11日に隊旗授与など団結式を挙行し、12日拉薩に集結しました。15日、登山口の拉古(ラグ)まで、920kmのドライブに出発しました。

10月18日、1.5トンの荷物を積んだヤク23頭とともにベースキャンプ(4,320m)に入山。20日には、10人のポーター達の献身的な働きで阿扎(アタ)氷河4,440m地点にデボ・キャンプを建設しました。10月24日、第1アイスフォール上流4,660mの前進ベースキャンプ(ABC)に全員が集結し、29日には4,890mに第1キャンプ(C1)を建設。11月1日、氷河本流から離れて主稜線に登るアイスフォールを固定ロープ600m敷設により突破して、岩稜上に第2キャンプ(C2、5,680m)を建設し、頂上攻撃の態勢が整いました。

11月4日、中国側5人、日本側4人がC2に入り、翌5日、中国側はC2から頂上に向かいました。しかし、深い雪と厳しい稜線の登攀に3人が途中で敗退しました。徳慶欧珠(Deqing Ouzhu)と次仁旦塔(Ciren Danda)の2人が登攀を続け、午後1時18分、KG-2の頂上に立ちました。

日本側4人は、第3キャンプ(5,910m)を建設、2人が泊まりました。翌日は悪天候で停滞し、7日、矢崎雅則、近藤昂一郎が午後3時36分、登頂しました。

(隊長 井上達男)



満月が残る空で朝焼けに輝くKG-2(左)。左手から稜線に取り付き尾根伝いに頂上を目指した(第1キャンプで)



頂上で神戸大学旗を広げる近藤昂一郎隊員

◀カンリガルボ山群・KG-2峰

約280kmの長大な山脈を構成するカンリガルボ山群は、インドやミャンマーとの国境に近く、外国人の立ち入りが厳しく制限されている。最高峰は神戸大学が2003年に挑戦したルオニイ峰(6,882m)。KG-2峰は阿扎(アタ)氷河3姉妹峰の中央峰で、ルオニイ峰の北西に聳える。標高は旧ソ連の地図から6,703mと推定されていたが、今回、登頂隊員のGPSにより6,805mと判明し、中国チベット登山協会もこれを認定した。山名については、現地、拉古村の村長の意見や村人達からのヒヤリングで、ロブチン峰(英語表記(Lopchin)、中国語表記(洛布青、Lou bu qin))の名を得た。チベット語で雄鷹、勇敢、智慧に加えて大学の意味を持っている。中国地質大学と協議の結果、白鷹の峰・ロブチンを山名として定着させたいと考えている。

登頂記録

矢崎雅則隊員・近藤昂一郎隊員

《矢崎》 11月7日3時半、起床。C3テントから外を覗く。晴天。「今日は行ける!」。さつさと朝食を済ませて、C2から登ってくる予定の中国チームを待つ。近藤が「寒い、寒い」というので、ガスを空焚きして暖を取る。

7時半、中国チームが途中で引き返したという無線が入る。我々2人だけでアタックするしかない。

8時、出発。ほぼ快晴。視界良好。

《近藤》 矢崎さんの出発の掛け声に気を引き締め、「さあ、行きましょう!」と威勢良く応えた。

9時、6000mを越えた辺りから急斜面になる。アイゼンに履き替え、一気にスカイラインめがけて駆け上る。空に向かって登っているみたいだ。やがてパウダースノーの深雪となり、登れど登れどずり落ちるラッセルに苦しむ。

6450m辺りで、今まで見えなかった景色が見えてきた。あまりの雄大さに息をのむ。頂上までがはつきり見通せ、益々気持ちが高ぶってきた。

い、ラッセルが二層厳しくなる。積もっているパウダースノーを取り除き、下の堅い斜面を踏みしめてやっと登る。ガスの中でまったく先が見えない。タイムリミットと想定した15時が近づく。もうだめか。

その時、目の前に氷の壁が見えた。斜面を登りきり下に向かつて「矢崎さん、着きました!最後の雪庇の真下です!」と声を張り上げて叫んだが、寒さで声がかすれ届かない。何度も叫ぶが風で遮られる。逆に矢崎さんから「下りよう!」という声が聞こえてきた。

《矢崎》 体力は限界だった。C3キャンプを出て既に7時間。6700m付近で、胸までの深い雪に喘いでいた。頂上まであとわずか20m。だが、遙かに遠い。

雪が降り始め、風も出てきた。現在15時。もう、無理だ。

だが、前に行く近藤の心は頂上を目指していた。「もうすぐです、来て下さい!」。もう少しなら……。

ロープを掴んで重い体を引き上げる。なだらかな斜面に出た。本当にもうすぐだ。だがここで、急に足に力が入らなく



頂上直下で最後の壁を登る近藤昂一郎隊員

なった。もしスリップすれば、近藤もろとも数百m滑落する。最後の力を絞り出し、一歩一歩足を運んだ。そして10分も歩いたろうか。朦朧とした頭に、近藤が無線でC1に叫ぶ声が聞こえた。「着きました!」

15時36分、登頂。もう登らなくてよいのだ。近藤と握手し、写真を撮り合う。近藤は隊旗、大学旗を掲げた。風でうまく広げられない。

16時、ゆっくりと下山を始める。19時前、日没。しばらく歩くと真つ暗になり、雪が降り始めた。前方に見えた明かりを指して歩いた。迎えに来た石丸のヘッドランプだった。

20時、C3に帰着。長い1日が終わった。

友好の登山

合同登山では文化や習慣、価値観の相違から、意思疎通や意見の対立が発生しがちです。今回の合同学術登山隊はチベット人、漢人、日本人の学生が中心となる混成部隊でしたが、厳しい自然環境下での過酷な荷揚げ、危険なルートの開拓など、苦勞を分け合い協働することを通じて深く異文化交流ができました。「同じ釜の飯を食った仲間」という言い方がありますが、登山を通じて培った友好関係は、国際化の時代に様々な場面で相互理解を発展させる力になると信じます。また、チベットの未踏峰にチベットの若者が初登頂を成し遂げたことも、大きな価値があると思います。

下山後、武漢空港に降り立ち、荷物を満載したカートを押してロビーに出ると、何やら大きな横断幕があり、行く手を遮るほどの人出でした。花束を持った若い女性たちが手を振っています。テレビニュースでなじみの有名人を出迎えるシーンです。どんな人を出迎えかと思っていたらいきなり花束がこちらに差し出されてびっくり。中国地質大学の構内に入るとやはり大きな横断幕に

「熱烈歓迎!祝カンリガルボ山群初登頂」とあります。報告会は大教室に100名を越す聴衆が詰めかけ、学長以下関係者多数の祝辞と表彰を頂きました。合同登山への期待の大きさに驚くとともに、成功してよかったと安堵しました。

(隊長 井上達男)



下山後、中国・武漢空港で歓迎を受ける隊員ら

ふもとの村で

ポロンツァンボ川の最奥の集落、拉古の村には「来果小学校」という小学校があり、8歳から12歳の子ども、約30人が通っています。ほっぺを真っ赤にした子供達は元気そのもので、以前の日本の子供達もこうだったと懐かしく思いました。私たちは下山後にこの小学校を訪問し、高校教諭の山本恵昭隊員が先生となって紙飛行機づくりの特別授業を行いました。授業後、日本から持ってきたおまけつきのお菓子や、中国隊員が用意していた文房具などをプレゼントすると、はじめは恥ずかしそうにしていた子供達の笑顔がぱっとはじけました。帰るときにはすっかり友達になってしまいました。

(山田健、山本恵昭)



紙飛行機づくりの後、子どもたちと(拉古村の来果小学校で)

雲南省北部の昆虫調査報告

拉薩からのルートは昆虫調査としては気温が低すぎると予想し、登山隊の別動隊として、ガイドの学生及び運転手を含む計六人が昆明からチベット入域を試みました。

日程は、9月18日より9日間で、行程は、昆明—麗江—香格里拉—奔子欄—德欽(梅里雪山の手前の村)—香格里拉—平浪—昆明の1,857kmです。最高高度は、約4,300mです。特筆する成果は、ツツレサセコオロギ類のストック数種と、世界で一番小さいトノサマバッタのストックを得たこと、そして中国側から加わった何祝清君(華東師範大学修士課程)が捕まえたコオロギが、新種として記載されたことなどです。

チベットへの許可が下りなかったため、四川省沿いにカンリガルボ山群に近づこうとしましたが、写真撮影禁止と聞き、急遽変更して、北西隅の梅里雪山方面に向かい、途中標高3,000m位でフタホシコオロギを多数捕まえました。本種はヨーロッパから琉球諸島まで広範に分布しますが、休眠がなく、通常北や高地には見られません。どうやって越冬するのか、今後の研究が待たれます。

(竹田真木生)



学術隊員が発見した新種のコオロギ

ご支援への感謝

この遠征にご支援・ご協力を賜りました学長・理事はじめ神戸大学の関係各位、各学部の同窓会関係者、卒業生、応援していただいた神戸大学の学生の皆さんに厚く御礼申し上げます。募金活動には卒業生や神戸大学山岳会を中心に一般市民、甲南山岳会、日本山岳会、など全部で400名近い方にご寄付を頂戴しました。心より感謝申し上げます。また、この厳しい経済状況の中でご援助いただきました企業に御礼申し上げます。なお、今回の成功は合同隊の相手方である中国地質大学武漢校との協力関係なしにはなかったことを付記し、中国側の関係者に敬意を表し御礼申し上げます。

合同学術登山隊実行委員長 山形裕士
(農学研究科教授)



神戸大学山岳部・山岳会

山岳部の歴史は古く1915年に神戸高商山岳部として発足以来、台湾、南米、カラコルム、チベットなど世界各地で歴史に残る初登頂や実り多い学術調査を実施してきました。

海外登山の歴史

- 1934 第一次台湾遠征
- 1936 第二次台湾遠征
- 1958 パタゴニア探検隊 アレナレス峰3,437m初登頂
- 1960 チリ中央アンデス探検隊 神戸峰5,008m初登頂
- 1963 ボリビア・アンデス探検
- 1968 カナダ・ユーコン学術登山
- 1976 第二次カラコルム遠征隊 シェルピ・カンリ峰7,380m初登頂
- 1986 チベット学術登山隊 クーラ・カンリ峰7,554m初登頂
- 1988 神戸大学中国地質大学合同登山隊 雀児山(6,168m)初登頂
- 2003 カンリガルボ山群 ルオニ峰登山隊(敗退)
- 2009 カンリガルボ山群 神戸大学中国地質大学(武漢)合同学術登山隊
ロブチン峰(KG-2峰)6,805m初登頂

隊員の構成(年齢は登頂日現在)

日本側(7人)

実行委員長	山形裕士(59歳:神戸大学農学研究科教授)
隊長	井上達男(62歳:林ダイフク研究・研修センター)
副隊長(秘書長)	山田健(54歳:兵庫県東播磨県民局)
登攀リーダー	山本恵昭(51歳:神戸市立兵庫商業高等学校)
隊員	矢崎雅則(35歳:兵庫県洲本農林水産振興事務所)
	近藤昂一郎(23歳:大学院理学研究科学生)
	石丸祥史(19歳:農学部学生)



(左から)山田健、井上達男(隊長)、山本恵昭、石丸祥史、矢崎雅則、近藤昂一郎の各隊員

中国側(10人)

隊長	董範(Dong Fan)(49歳:教授)
----	----------------------

学術隊(6人)

リーダー	竹田真木生(59歳:神戸大学農学研究科教授)
	近藤伸一(65歳:兵庫みどり公社)
	新井哲夫(64歳:山口県立大学)
	相坂耕作(60歳:赤松の里昆虫文化館)
	田中誠二(57歳:農業生物資源研究所)
	何祝清(華東師範大学修士課程学生)